

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和7年10月7日
枚方市立春日小学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童（生徒）の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

<学力調査結果の概要>

○国語について

→説明文や物語文等、これまでも様々な文章を読み、内容を理解する学習を積み重ねていることから、資料等を読み、内容を把握する「読み取る力」については、概ね身についていると考えられる。また、くり返し練習する漢字の読み書きにおいても同様である。しかし、自分の考えや意見を「書く力」については、書く目的を明確にするとともに、求められる課題（条件）に沿って書けるよう、くり返し練習をする必要がある。無回答率が高いことから、あきらめずに取り組むことも日々、取り組む必要がある。**（粘り強く学ぶ、取り組む児童の育成）**

○算数について

→計算することやグラフを読むこと等、基本的な知識は身についている。しかし、小数や分数の構成や、図形の構成について、既習事項を応用して解答する力に課題が見られた。また、はかりの目盛りを読むこと、「10%増量」の意味を説明することについて、学習したことが普段の生活と直結して捉えられていないのではないかと考える。無回答率が高い問題もあることから、日ごろから単に答えを出して終わりではなく、答えを出すまでの過程を大切に、それらを書いたり話したりすることの積み重ねが必要だと考える。**（思考力・判断力、表現力の育成）**

○理科について

→既習事項をもとに考える問題については、概ね正答率が高い。しかし、実験を正しく行うための「条件」設定や「なぜ、この結果になったのか」等の理由について、根拠をもとに記述することに課題がある。また、乾電池2個のつなぎ方について、「直列つなぎが電磁石を強くする」という知識を見る問題が、全国の正答率の半分だった。（本校では25%の児童が正答）学習内容を日常生活にも関連付けて理解できるようにしたい。さらに、与えられた課題だけでなく、学習内容に関連して、児童が自ら課題を持って解決する経験を、各学年で意図的にさせることも必要だと考える。**（自ら課題を持って、主体的に学ぶ児童の育成）**

【成果が見られた設問】 一三(一)

この問題では、バスの運転手の話を受け、具体的に話をしてもらうことで、いかに安全面を重視しているか、理解を深められたことに気づけた児童が多かった。インタビューにおける傍線部アの前後のやり取りを読み取り、小森さんの質問の意図を理解したことで、正しい答えを選択できた。

手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択。

この問題では、手ぬぐいの模様について読み手がよく理解できるように、言葉だけでなく、図を用いて書き表し方を工夫していると捉えた児童が多かった。実際に、を読み、何を伝えようとしているのかを適切に理解したことで、正しい答えを選択できた。また、言葉だけでなく、言葉と図等によって理解を深める経験をしてきた成果である。

国語科における設問

【成果が見られた設問】 3一

【問題の概要】

時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づく。

- 1 時代とともに言葉の意味が変わること。
- 2 時代とともにものの使い方が変わること。
- 3 世代によってものの呼び方がちがうこと。
- 4 世代によって言葉の使い方は変わらないこと。

【木村さんの経験】

ひいおばあちゃんが「かわやはどこ」と聞いたことがあったなあ。ぼくが「かわやって何。」とたずねたら、お父さんは「便所のことだよ。」と教えてくれたなあ。ぼくはトイレって言うんだけどな。

一 木村さんは、「資料1」を読み、次の「木村さんの経験」を思い出しました。木村さんが経験を通して気づいたこととして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。



木村さん

これまで読んだ資料を通して、気づいたこととして適切なものを選択。

【考察】

文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけるためには、読む目的を明確にすることが大切である。

この問題では、児童が資料の内容を適切に捉えるとともに、木村さんの経験について、会話文の内容について、**時間の経過による言葉の違いに気づくことができる**。また、児童は、自分たちが普段使っている言葉とは異なる言葉があることや、それぞれの世代には特有の**言葉遣いがあることに気づく**とともに、「かわや」「便所」「トイレ」の意味も知っていたものと考ええる。

【課題が見られた設問】 2三

【問題の概要】

目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。

【調べたこと】

〈本を読んで分かったこと〉

- ブックカバー
・何回か折るだけで、すぐに完成する。
- ・本の大きさに合わせて包むことができる。
- ペットボトルカバー
・ペットボトルを包んで持ち運ぶことができる。

〈使ってみて分かったこと〉

- ブックカバー
・よごれがつかのを防ぐことができよかった。
- ・落としたときに、本がきずづかなかった。
- ペットボトルカバー
・水できが荷物につかなくてよかった。
- ・温かい飲み物が冷めにくかった。

よさ2 使い方

手などをふくだけではなく、身に着けたり、物を包んだりすることもできます。

身に着ける使い方

あつい日に、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。また、外で作業をするときに頭にかぶると、あせをきゅうしゅうし、両手が空くので仕事がしやすくなります。

物を包む使い方

手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。

このように、手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。みなさんもぜひ使ってみてください。



三 山田さんは、「ちらし」の書き表し方について友達に相談し、「ちらし」のほうがよく考え、次の「調べたこと」を見直しました。あなたが山田さんなら、どのように書き直しますか。おどの条件に合わせて書きましょう。

「ちらし」の二重傍線部を、「調べたこと」をもとに詳しく書く。

【考察】

自分の考えが伝わるように文章を書くためには、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、書き表し方を工夫することが重要である。

この問題では、調べたことの「本を読んで分かったこと」「使ってみて分かったこと」から言葉や文を取り上げることと、60字以上100字以内で書くことが条件となっている。しかし、条件を満たして書けた児童は約49%で半数。約10%の児童が無回答だった。

学習指導要領の内容(5・6年)にもあるように、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するなど、学年に応じて「書くこと」に慣れていく必要がある。

【課題が見られた設問】 3二(2)

- (1) 「木村さんのメモ」の ア の中に入る適切な言葉を「資料2」の中から書きぬきましよう。
- (2) 「木村さんのメモ」の イ に当てはまる内容として最も適切なものを「資料3」を読み、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 時代とともに言葉の意味が変わる。
- 2 時代とともにものの使い方が変わる。
- 3 世代によってものの呼び方がちがう。
- 4 世代によって言葉の使い方は変わらない。

【資料3】では、最終段落に、書き手の伝えたいことが述べられている。また、「現代」という言葉から、「時代」によって使われる「ことば」がどうなのかと捉えることがポイントである。約40%の児童が気づくことができた。説明文を中心に、書き手が何を伝えたいのか捉えるなど、目的な明確にして内容を読み取る活動を積み重ねる必要がある。

(2) 木村さんは、「資料1」を読み返して言葉の変化について自分が一番なっとくしたことを「資料2」、「資料3」、「資料4」に書かれていることを理由にしてまとめることにしました。あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

《条件》

○ 言葉の変化についてなっとくしたことを「資料1」から言葉や文を取り上げて書くこと。
○ なっとくした理由を「資料2」、「資料3」、「資料4」の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

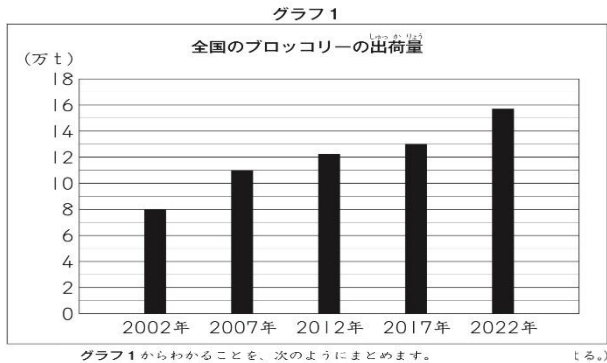
文章や資料から内容を読み取り、何を書くのかを考えると同時に、「まずは読んで理解する、書いてみる」という「あきらめずに、行動に移す」ことも、児童につけさせたい必要な力だと考える。

算数科における設問

【成果が見られた設問】 Ⅰ(Ⅰ)

【問題の概要】

棒グラフから、項目間の関係を読み取る。



2022年の全国の出荷量は、2002年の出荷量の約 倍になっています。

上の○に入る数を、下の 1 から 4 までのの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.5
- 2 2
- 3 8
- 4 16

2022年の全国の出荷量が2002年の全国の出荷量の何倍かを棒グラフから読み取って選ぶ。

【考察】

日常の事象について、目的に応じて、必要なデータを収集し、データの特徴や傾向を捉え考察するなど、統計的に問題を解決することが重要である。

この問題は、2022年の出荷量が2002年の出荷量の何倍になっているかを調べるために、棒グラフの長さに着目したり目盛りを読み取ったりする力が必要である。棒グラフの特徴や使い方を理解し、何をもとにして「何倍」を求めるのか、3年時の既習事項を用いて解答することができている。

【成果が見られた設問】 Ⅰ(Ⅳ)

【問題の概要】

示された資料から必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算する。

(4) 指定野菜について調べていたあいりさんたちは、1人が1日に食べる野菜の量の目標は350gと知り、下の資料を見つけました。

70gってどれくらい？
それぞれの野菜の70gの目安

きゅうり 1本分で70g	オクラ 8本分で70g	ブロッコリー 4個分で70g
ピーマン 2個分で70g	アスパラガス 3本分で70g	にんじん 3cm分で70g

例えば、きゅうりを1本食べた다고すると、70gの野菜を食べたことになりますね。

ピーマン1個とブロッコリー4個を食べたら、何gの野菜を食べたと言えることができるのかな。

上の資料をもとにすると、ピーマン1個とブロッコリー4個を食べたとき、何gの野菜を食べたと言えることができますか。
求める式を書きましょう。また、答えも書きましょう。

示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とブロッコリー4個の重さを求める式と答えを書く。

【考察】

問題を解決するために、必要な情報を選び、数量の関係を式に表せることが大切である。

この問題では、「70gってどれくらい」という資料からピーマンは「2個で70g」、ブロッコリーは「4個で70g」という情報を選び、これらをもとに、「ピーマン1個とブロッコリー4個の重さの求め方を式に表し、計算している。4年時に学習した「問題場面の数量の関係」に着目し、それらの数を四則が混合した式を用いて計算することで、正解を導き出せると気づけた児童が多かったと思われる。

算数科における設問

【成果が見られた設問】3(4)

【問題の概要】

異分母の分数の加法の計算をする。

(4) $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ を計算しましょう。

【考察】

この問題では、例えば $1/2$ と $1/3$ の分母の最小公倍数である「6」を用いて通分し、 $3/6+2/6$ を計算することが必要である。

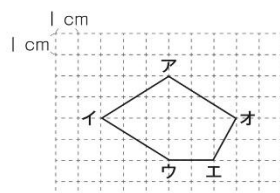
これは、5年時において学習している内容であり、約85%の児童が既習事項を適切に用いて正答に至ったと考える。くり返し練習をするなど、家庭学習等で自主学習をして積み上げていくよう、指導していきたい。

【課題が見られた設問】

【問題の概要】

基本図形に分解することができる図形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述する。

(4) わかなさんたちは、図3のような五角形アイウエオの面積の求め方を考えています。



五角形アイウエオを2つの図形に分けて面積を求めるとき、あなたならどちらの直線をひいて求めますか。2つの図形に分ける1本の直線を、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、2つの図形の面積がそれぞれ何cm²になるのか、それらの求め方を、図3の中から必要な長さを調べて、式や言葉を使って書きましょう。ただし、計算の答えを書く必要はありません。

- 1 直線イオ
- 2 直線ウオ

わかなさんたちは、三角形や四角形の面積の求め方が使えるように、図3の五角形アイウエオを、2つの図形に分けようとしています。



わたし
私は、直線イオをひいて2つの図形に分けようと思います。



私は、直線ウオをひいて2つの図形に分けようと思います。

わかなさんとゆうたさんのどちらの分け方でも、五角形アイウエオの面積を求めることができます。

「五角形の面積を求めるために五角形を2つの図形に分解し、それぞれの図形の面積の求め方を書く。」

【考察】

図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方をもとに、図形の面積の求め方を説明できるようにすることが大切である。

この問題では、五角形の面積を求めるために、既習の求積可能な2つの図形を見出し、面積を求めるために必要な情報を自ら選び出し、2つの図形のそれぞれの面積の求め方を筋道を立てて考察することが必要。

直線イオをひくと、三角形と台形の面積を求めることになる。これは約14%の児童が正答した。また、直線ウオをひくと、ひし形と三角形の面積を求めることになる。これは約5%の児童が正答した。問題には、このように

※ 必要ならば、下の公式を使って考えてもかまいません。

- ・ 長方形の面積＝たて×横
＝横×たて
- ・ 正方形の面積＝1辺×1辺
- ・ 平行四辺形の面積＝底辺×高さ
- ・ 三角形の面積＝底辺×高さ÷2
- ・ 台形の面積＝(上底+下底)×高さ÷2
- ・ ひし形の面積＝対角線×対角線÷2

公式も明記されていたが、多くが正答に至らなかったのは、図3を用いて、必要な長さを求めることができなかったのではないかと推測する。

算数科における設問

【課題が見られた設問】 3(1)

【問題の概要】

小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉える。

3

ひろとさんたちは、小数や分数のたし算について、ふり返っています。

(1) ひろとさんは、 $0.4 + 0.3$ についてまとめています。



0.4 は 0.1 の 4 個分、0.3 は 0.1 の 3 個分です。
0.1 を $\textcircled{0.1}$ として下の図のように表します。



$0.4 + 0.3$ の計算は、0.1 をもとにすると、 $4 + 3$ を使って考えることができます。

$0.4 + 0.3$ は、0.1 をもとにする数にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、 $0.4 + 0.05$ について同じようにまとめます。

0.4 は $\textcircled{0.1}$ の 40 個分、0.05 は $\textcircled{0.01}$ の 5 個分です。
 $0.4 + 0.05$ の計算は、 $\textcircled{0.01}$ をもとにすると、 $40 + 5$ を使って考えることができます。

上の $\textcircled{}$ にはすべて同じ数が入ります。 $\textcircled{}$ に入る数を書きましょう。

$0.4 + 0.05$ について、整数の加法で考えると、共通する単位を書く。

【考察】

小数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、共通する単位を見い出すことで、整数の加法に帰着して考察できるようにすることが大切である。

この問題では、0.4は0.01の40個分、0.05は0.01の5個分とみることで、「0.01」を共通する単位として捉えることが必要。約58%の児童が正答しているものの全国より約15ポイント下回っている。児童は、数の相対的な大きさについて理解できていないことが予想される。「単位」についての理解を深まるよう、低学年のうちから系統立てて、積み上げておきたい。

【課題が見られた設問】 1(4)

【問題の概要】

分数の加法について、共通する単位分数を見出し、加数と被加数が、共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述する。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。

もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にすると、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数と $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ が、共通する単位分数のいくつ分になるかを書く。

【考察】

分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、共通する単位分数を見い出すことで、整数の加法に帰着して考察できるようにすることが大切である。

この問題では共通する単位分数として「 $\frac{1}{12}$ 」を見出し、 $\frac{3}{4}$ は $\frac{9}{12}$ であることから、 $\frac{1}{12}$ の9個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{8}{12}$ であることから $\frac{1}{12}$ の8個分と捉えることが必要。異分母の分数の加法・減法について理解しているとともに、自分の考えを数や言葉を使って説明する経験の積み重ねも大切だと考える。無回答率が9.2%あることから、日ごろから、「考えを表現すること」をあきらめないよう、支援・指導する必要もある。(教科問わず)

理科における設問

【成果が見られた設問】 2(3)

問題の概要

電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることを知識が身につけている。

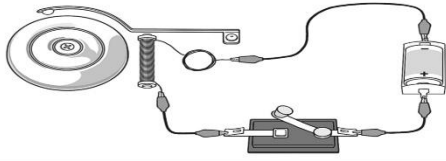
いおりさんとてつやさんは、かね（ベル）について話しています。

かね（ベル）の鳴る音が小さいので、音を大きくしたいね。電磁石の強さを強くして、かねを強くたたけばいいね。



電磁石の強さを強くするには、次のようにするといいいね。

- ・電磁石のコイルの巻き数を変えたとしたら、巻き数を（ア）。
- ・かん電池を変えたとしたら、かん電池を2個直列つなぎにする。



(3) 上のふきだしの（ア）にあてはまることばを書きましょう。

ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く。

考察

この問題は、ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるために、コイルの巻数の変え方を表現できるかを問うものである。

5年時に学習した電磁石の強さとコイルの巻数の関係の知識を、約80%の児童が身につけていると考える。実験を通して身につけたことを言葉で説明したり、図に整理するなど、知識と関連づけて理解を深めることが、成果につながったと考える。生きて働く知識として得るために、他の学習や生活の場面でも活用することを意識づけておきたい。

【成果が見られた設問】 3(2)

問題の概要

顕微鏡を操作して適切な像にするための技術が身につけている。

てるみさんは、ヘチマの花粉をけんび鏡で観察することにしました。



けんび鏡を操作すると、観察する物の見え方が変わるね。

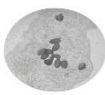
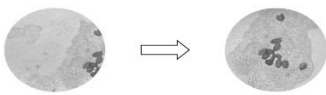


(2) けんび鏡を操作したとき、キとクのように、操作する前と後で見え方が変化しました。キとクはどのような操作をしたのか、下の1から4の中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。

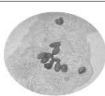
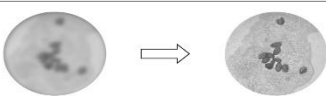
操作する前

操作した後

キ



ク



- 1 対物レンズをちがう倍率のものにした
- 2 プレパラートを動かした
- 3 明るさを調節した
- 4 調節ねじを回した

ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ。

考察

この問題は、ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための操作の技能が身につけているかどうかを問うものである。

実験において、扱う器具や機器などを適切に操作する技能を身につけることは大切。児童の約50%が、理解しており、全国より約4ポイント上回っていた。

しかし、約50%の児童は、ピントを合わせたり、対象物を中央にくるようプレパラートを動かす方法を理解できていない。実験の際に、より意識して操作すること、学習後もふりかえる機会が必要だと考える。

理科における設問

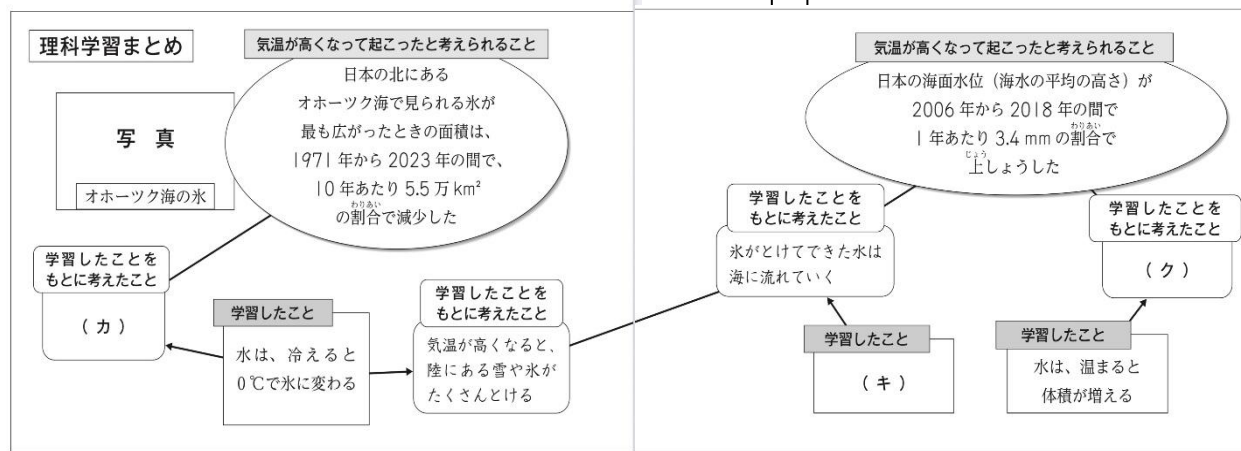
【成果が見られた設問】 4(3) カキク

問題の概要

- カ) 水が氷に変わる温度を根拠に、海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現する。
- キ) 氷が解けてできた水が海に流れていくことの根拠について、既習事項に関連づけて、知識を観念的に理解している。
- ク) 「水は温まると体積が増える」を根拠に海面水位が上昇した理由を予想し、表現する。

考察

この問題では、オホーツク海の氷と気温の変動との関係を「理科で学習したこと」に関連づけて「学習したことをもとに考えたこと」について思考して表現する。



- 1 海水は、温まると水と同じように体積が増える
- 2 海の氷は、平均気温が高くなるとできにくくなる
- 3 水は、高い場所から低い場所へと流れる
- 4 水は、氷になるとき体積が増える

この3問について、いずれも全国の正答率より上回っている。4年時に学習した「水は、冷えると0℃で氷に変わる」「水は、高い場所から低い場所へ流れる」「海水は、温まると水と同じように体積が増える」ことを知識として身に付けている児童が60%以上いる。

これからも、自然の事物・現象と知識を関連づけたり、知識を相互に関連づけて、理解を深めることを重視した授業づくりに取り組んでいく。

- カ) 海にある氷がとけることについて、氷が水に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ。
- キ) 氷が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連づけているものを選ぶ。
- ク) 海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ。

理科における設問

【課題が見られた設問】 2(1)

問題の概要

身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身につけている。

(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の 1 から 4 までのの中からそれぞれ 1 つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

- 1 電気を通し、磁石に引きつけられる。
- 2 電気を通し、磁石に引きつけられない。
- 3 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 4 電気を通さず、磁石に引きつけられない。

アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ。

考察

この問題では、身の回りの金属について、電気を通す物、磁石を引き付けられる物があることを理解していることが大切。ただし、アルミニウム、鉄、銅の性質を理解しておく必要がある。

全国より1.3ポイント上回っているものの、正答した児童は約12%にとどまっている。

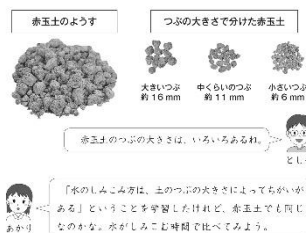
3年時に学習した内容であり、その後、授業ではほとんど触れられることがない。そのため、授業以外でも日常生活において、実感できる機会が必要だと考える。

【課題が見られた設問】 1(1)

問題の概要

赤土玉の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤土玉の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発送し、表現する。

1 としやさんとあかりさんは、学校の庭だんに入れた、赤土玉という土を見て、気づいたことを話しています。



あかりさんたちは、次のような【問題】を調べることにしました。

【問題】
水のしみ込み方は、赤土玉のつぶの大きさによって、ちがいがあろうか。

赤土玉の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く。



(1) 上の【方法】で、コップAの条件を下の通りにしたとき、コップBの条件（赤土玉の量と水の量）は、どのようにすればよいでしょうか。下の（ア）と（イ）の中にあてはまる数字を書きましょう。

	つぶの大きさ	赤土玉の量	水の量
コップAの条件	大きい	300 mL	250 mL
コップBの条件	小さい	(ア) mL	(イ) mL

考察

ここでは、【問題】を解決するための【方法】を発想し、条件を正しく設定しながら調べることが求められる。実験をする際に、「変える条件」と「変えない条件」を整理する必要性を、児童は理解しておく必要がある。

今後、実験の仕方を教えて結果を出すことをゴールにするだけでなく、むしろ、その過程で何に気をつけないといけないのか、子ども自身で考え、実験に臨ませるなど、試行錯誤することにも重きをおいた授業づくりをしていきたい。

理科における設問

【課題が見られた設問】 1(2)

問題の概要

赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果をもとに結論を導いた理由を表現する。

あかりさんは実験を行い、得られた【結果】を下のように整理しました。

【結果】 あかりさん 〈赤玉土に水がしみこむ時間〉		
	コップA (大きいつぼ)	コップB (小さいつぼ)
1 回目	3 秒	11 秒
2 回目	4 秒	10 秒
3 回目	4 秒	11 秒

あかりさんは、【問題に対するまとめ】を考えています。



【問題に対するまとめ】は、「水のしみこみ方は、赤玉土のつぶの大きさによって、ちがいがあある」といえるね。

(2) あかりさんが下線部のようにまとめたわけを、上の【結果】を使って書きましょう。

赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方のちがいをまとめたわけについて、結果を用いて書く。

考察

この問題では、【問題に対するまとめ】を導くには、【結果】をもとに考察することが大切である。

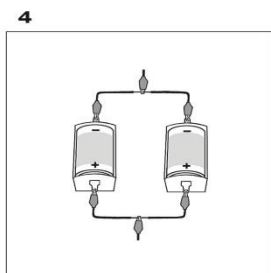
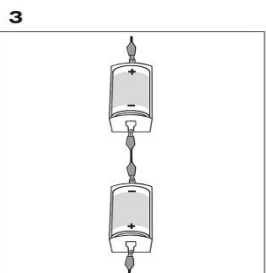
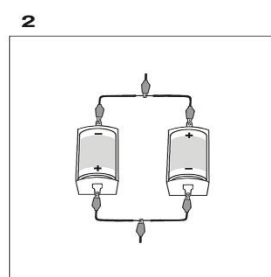
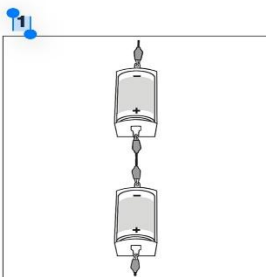
約8%の児童が、コップA、コップBにおける赤玉土に水がしみ込む時間をそれぞれ示し、また、しみ込む時間を比較して、そう考えた理由を記述できた。しかし、約40%の児童が、結論または理由のどちらかのみを書いており、完全な正答になっていない。その他、求められる表現ができなかった児童とともに、約9%の児童が無回答だった。これは、示された資料等をもとに、条件に沿って考察し、表現する経験不足によるものではないかと考える。実験後、結果とともに、結果にもとづく考察も書くなどの活動も取り入れていきたい。

【課題が見られた設問】 2(4)

問題の概要

乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身についている。

(4) かん電池 2 個を直列につなぎ、電磁石の強さを最も強くできるのは、どのようなつなぎ方ですか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くするものを選ぶ。

考察

この問題では、乾電池のつなぎ方について、直列つなぎ、並列つなぎの特徴を知識として身についていることが求められる。

全国の正答率より約19ポイント下回る約27%の児童が正答。学習したときは、ものづくりを通して、直列つなぎと並列つなぎの特徴を学んでいる。このとき、つくった装置を言葉や図に表現したり、言葉や図から装置を再構成するなどして、理解を深めることを意識した授業をつくる必要がある。

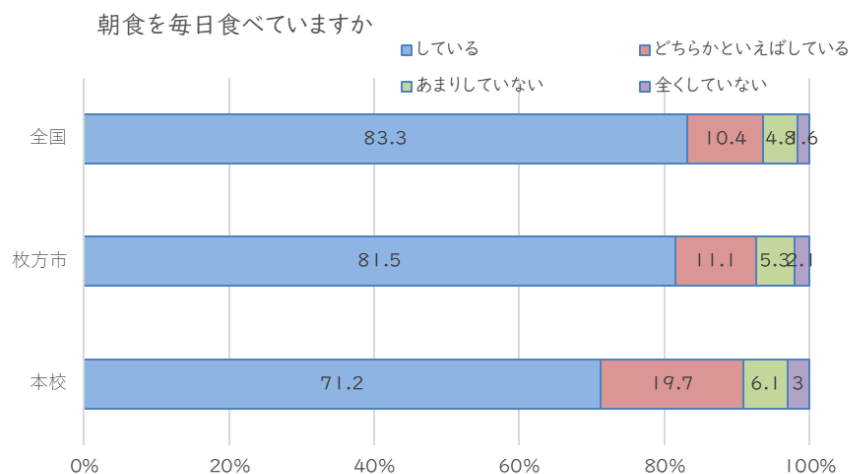
質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

質問内容 朝食は毎日食べていますか

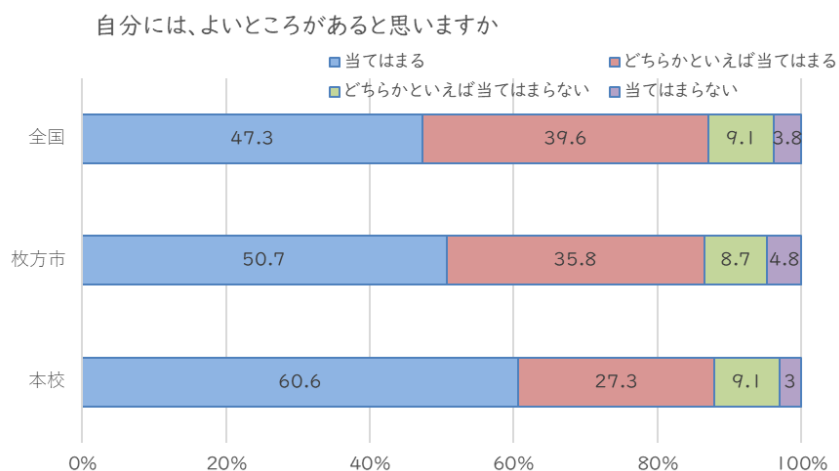


(考察)

約90%の児童が、朝食を摂って登校している。

児童の話によると、ゲームや動画視聴によって就寝時間が遅い児童が、朝食を摂れていないことが多い。(就寝時間が不規則な児童が約20%いる)

質問内容 自分には、よいところがあると思いますか

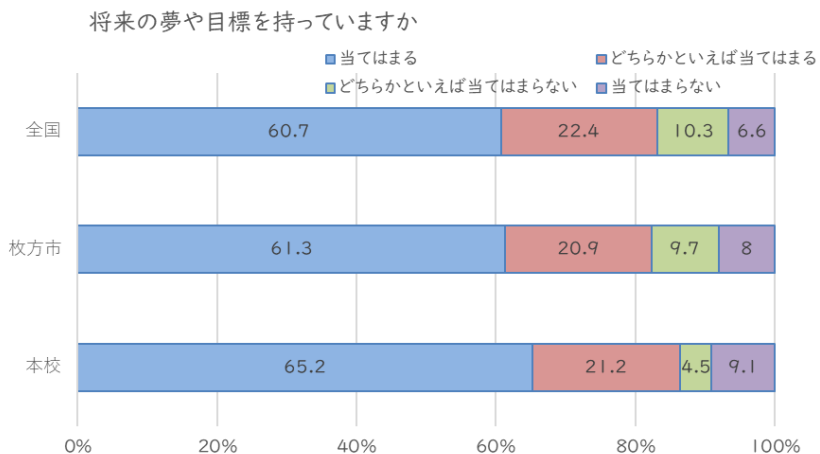


(考察)

約88%が肯定的回答で、全国より少し上回っている。

挨拶やチャイム着席、掃除等、学校全体で取り組んでいることで、子どもたちが認められる場面が多い。(「先生が認めてくれている」の肯定的回答が97%あり、児童にしっかりと伝わっていると考える。)

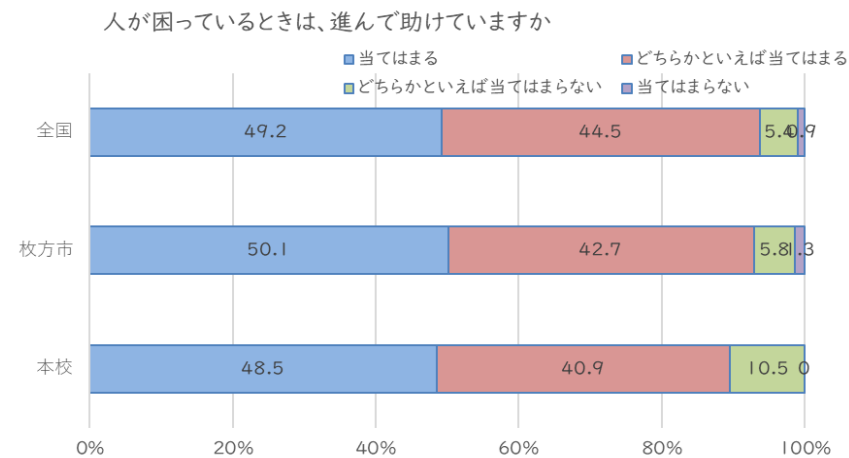
質問内容 将来の夢や目標を持っていますか



(考察)

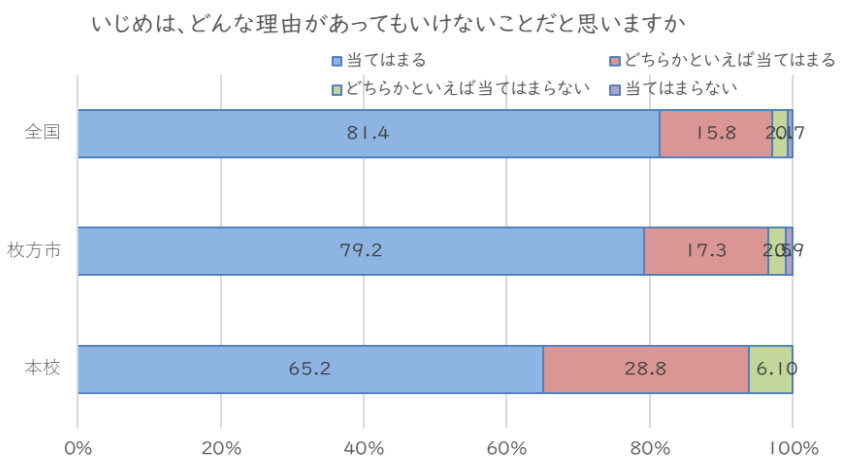
約86%が肯定的回答で、全国より、約3ポイント上回っている。強肯定は約65%であり、全国より約5ポイント上回っている。自己肯定感とともに将来への目標が全国より高いことをふまえ、今後、さらに児童の非認知能力に係ることを伝え、高めていきたい。

質問内容 人が困っているときは、進んで助けていますか



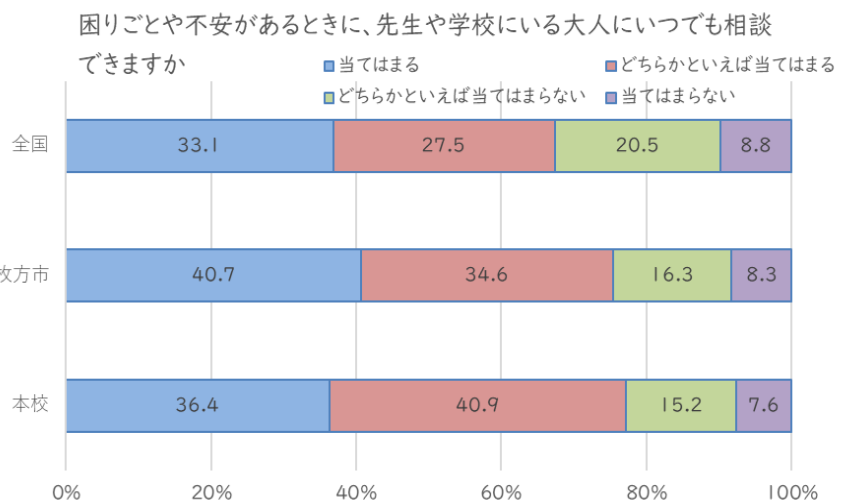
(考察)
多くが肯定的回答ではあるが、全国より約4ポイント下回っている。毎日の学校生活、学習活動を通して、他者への関心と「相手意識」をより高めることを意識した集団・仲間づくりを進めていきたい。(人権教育を中心に)

質問内容 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



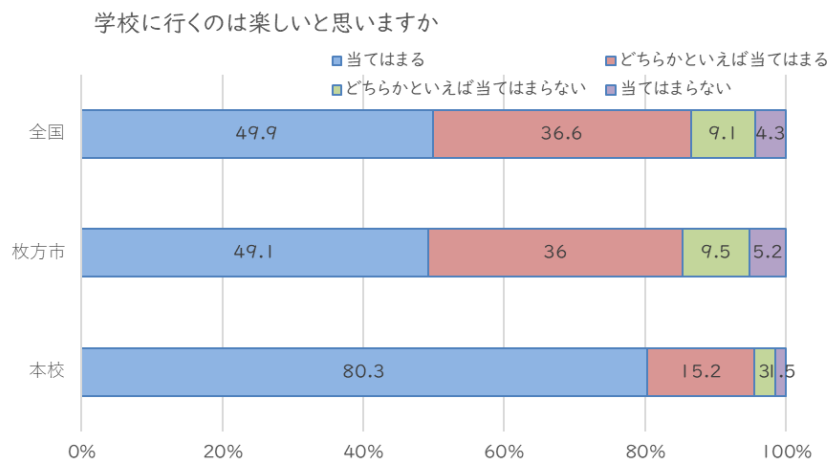
(考察)
高い肯定的回答ではあるが、全国より約3ポイント下回っている。人間関係は複雑で感情によるところもあるが、「いじめ」そのものは許されることではないことを、すべての子どもたちが理解できるよう、支援・指導することが重要。

質問内容 困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



(考察)
全国より約7ポイント上回っているが、約20%強は、「相談しづらい」と感じている。不登校(傾向)等の子どもに対し、見える状況だけでなく、見えていない「要因」に着目し、専門家等とともにチームで対応することが重要。

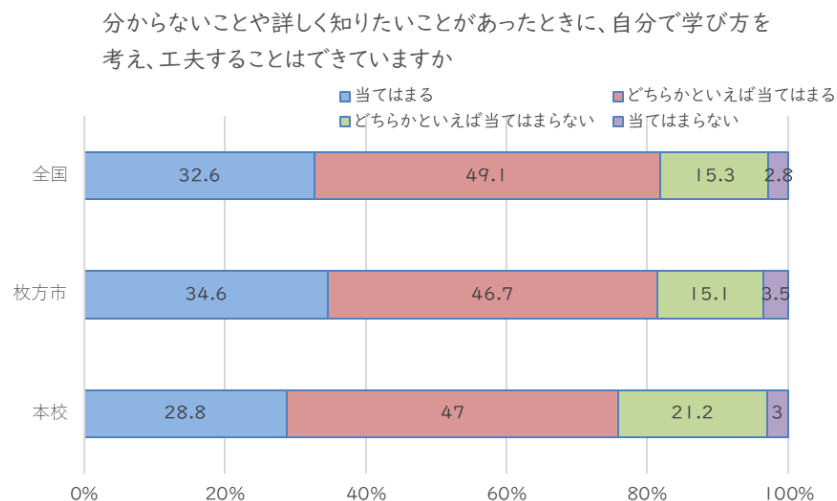
質問内容 学校に行くのは楽しいと思いますか



(考察)

約95%が肯定的であり、そのうち約80%が強肯定であり、全国より約30ポイント上回っている。子どもたちにとって安全で楽しい学校であることが何よりも大切なことであり、これからも、すべての子どもにとって楽しい学校づくりが重要。

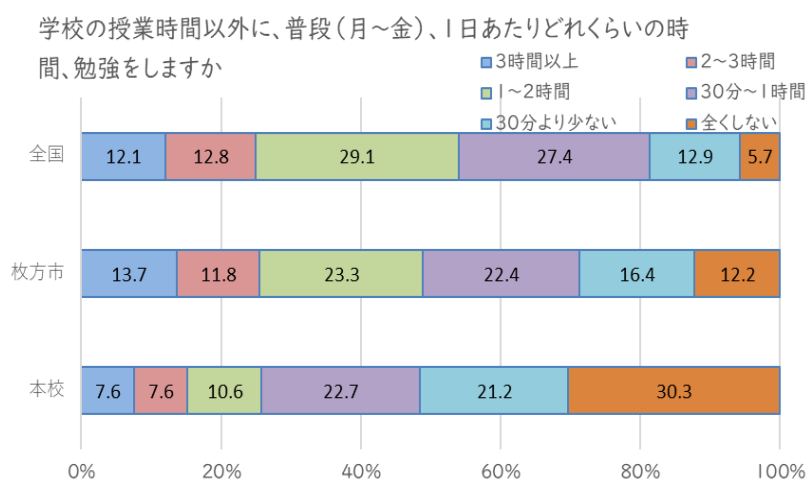
質問内容 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



(考察)

約75%の児童が肯定的回答であるが、全国より約5ポイント下回っている。「分からない」「もっと教えて」とクラスの仲間を頼ることも含めて、自ら分かろうとする姿勢、自ら課題を持って学びに向かう姿勢を育成する必要がある。

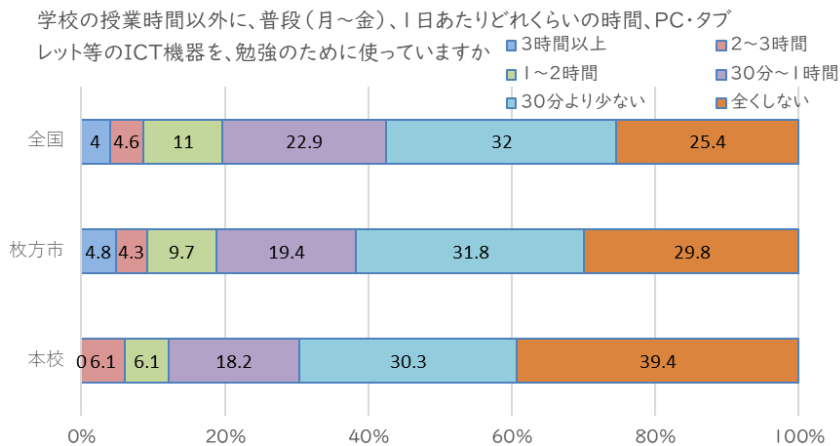
質問内容 学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか



(考察)

1時間以上学習している児童は、約26%。全国より約21ポイント下回っている。宿題も含めて、自分で課題を持って学びに向かう姿勢と習慣を育成する必要がある。(学校以外で全く学習しないと回答した児童は約30%)

質問内容 学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日あたりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか

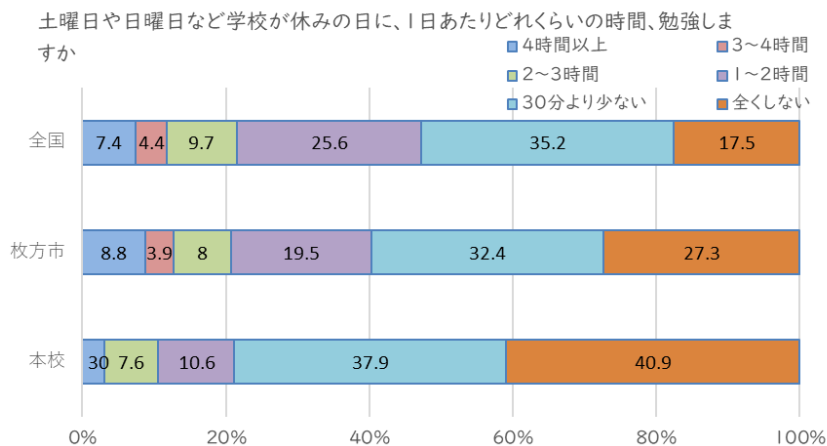


（考察）

1時間以上、学校以外でICT機器を勉強のために使っている子どもは約12%で全国より約7ポイント下回っている。

学校以外でタブレット等を使って全く学習していない子どもが約40%いる。家庭学習でも活用させたい。

質問内容 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらい勉強しますか

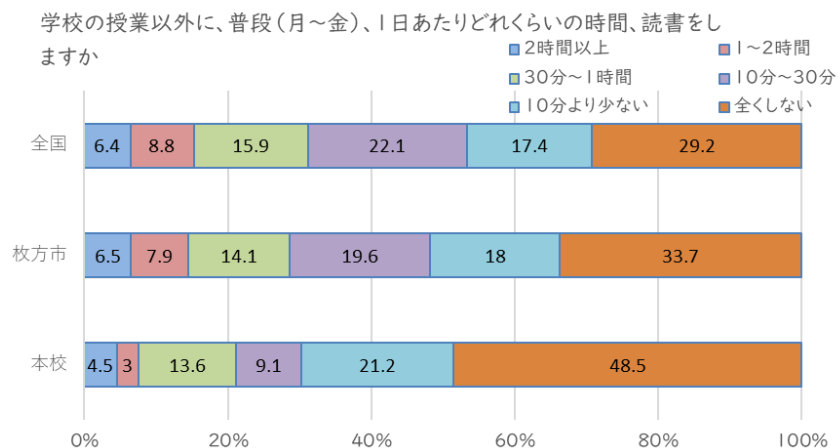


（考察）

1時間以上、学校以外で学習している子どもは約20%。全くしていない子どもは約40%。

中学校に進学するまでに、自分で課題を持って計画的に学習に向かう姿勢や習慣を身につけさせる必要がある。（低学年から段階的に指導する）

質問内容 学校の授業以外に、普段（月～金）、1日あたりどれくらい読書しますか

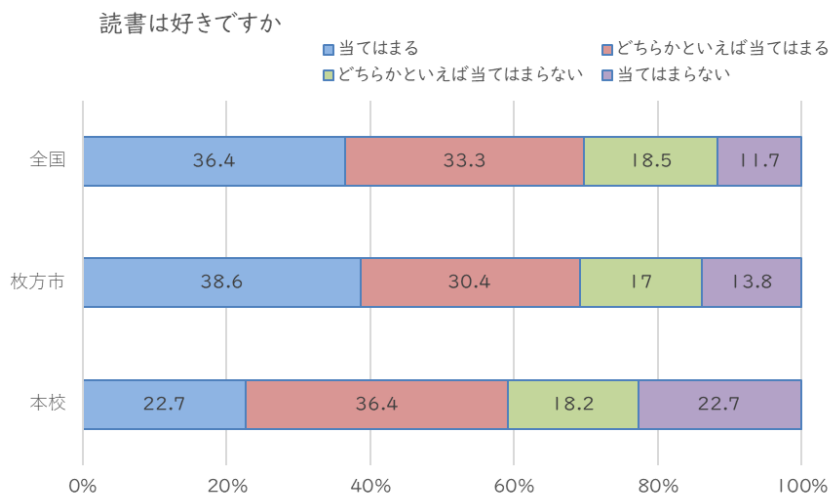


（考察）

1日30分以上、読書する子どもは約20%。普段、全く読書しない子どもは、約半分いる。

まずは、学校での図書の時間や朝学習での読書の時間を大切に、本に親しむ場の設定をしたい。

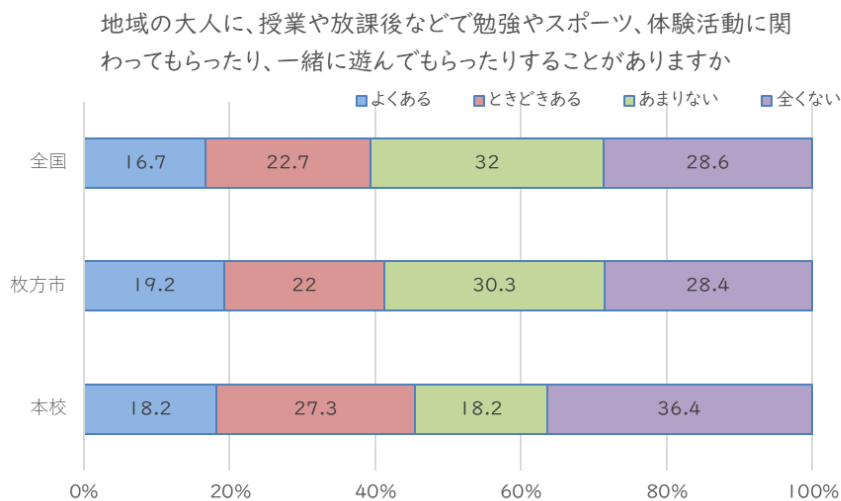
質問内容 読書は好きですか



(考察)

肯定的回答は約60%で、全国より約10ポイント下回っている。低学年のうちから習慣づけるとともに、家庭との連携も必要。また、学校の「読貯カード」の取組とともに、授業での読書の時間も大切に、本に親しませたい。

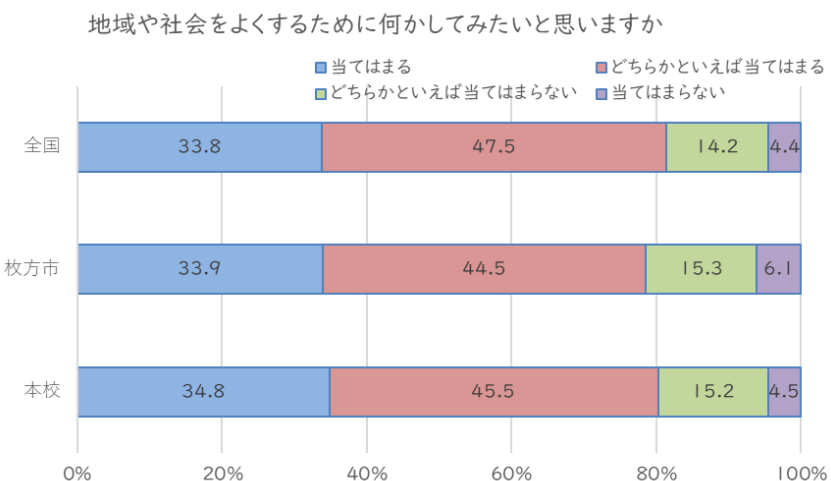
質問内容 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでももらったりすることがありますか



(考察)

肯定的回答が約46%で、全国より約6ポイント上回っている。春日校区コミュニティやPTAの力も強い。先日の夏祭りも、子どもたちはとても楽しみにしているなど、普段から、「つながり」が強いと思われる。コミュニティスクールとしての取組を推進していきたい。

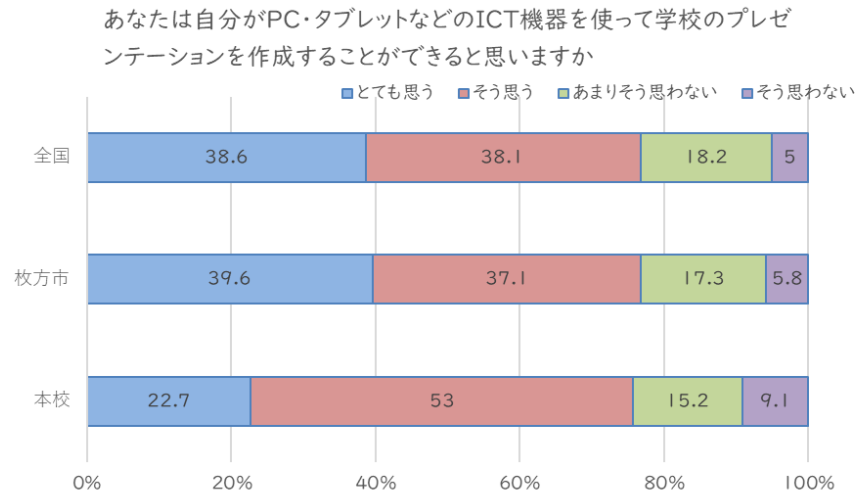
質問内容 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



(考察)

肯定的回答が約80%であり、全国とほぼ変わらない。地域の方も子どもたちのためという思いを持っていてくれている。今後、「コミュニティスクール」の観点で、保護者や地域の方と学ぶ場の設定をしていきたい。

質問内容 あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができると思いますか

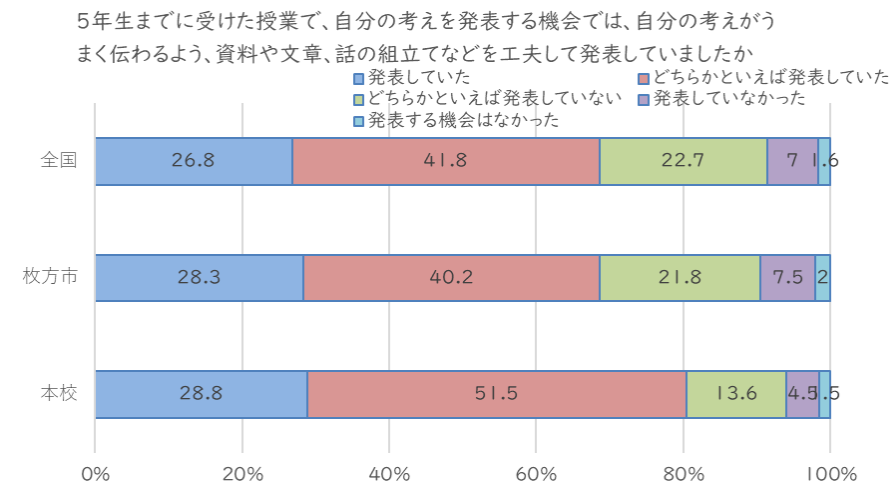


(考察)

肯定的回答が約76%で、全国とほぼ同じ。

今後、プレゼンテーション(発表)の力は身に付けさせたいスキルの一つ。模造紙等書いていたことをタブレット等も活用してできるよう、年間計画にも掲げて取り組ませたい。

質問内容 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

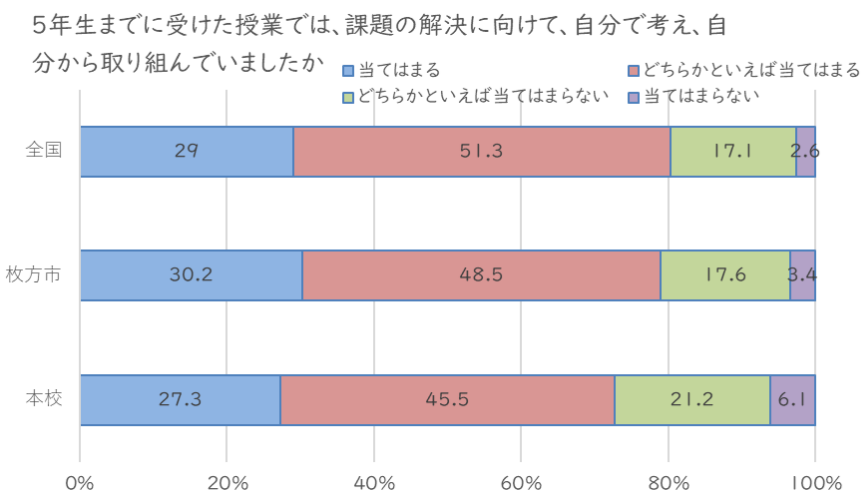


(考察)

肯定的回答が約80%で、全国より約12ポイント上回っている。

この力を今後も維持するとともに、低学年から系統立てて取り組み、育てていきたい。タブレット等も活用し、自分で伝え方を選んで取り組めるようにしていきたい。話すことが苦手な子どもは、何なら自分でできるのかを考えて取り組めるようにする、等)

質問内容 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



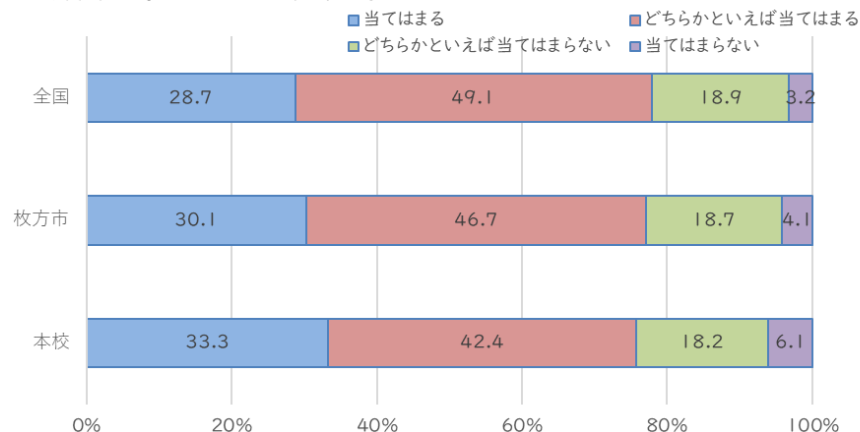
(考察)

肯定的回答が、約73%で全国より約7ポイント下回っている。

自ら課題を設定し、解決に向かって学びを進める「探求学習」を低学年から系統立てて取り組みたい。まずは、生活科や総合的な学習の時間を中心に、教科を横断した形で取り組んでいけたらと考える。

質問内容 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしなが
ら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



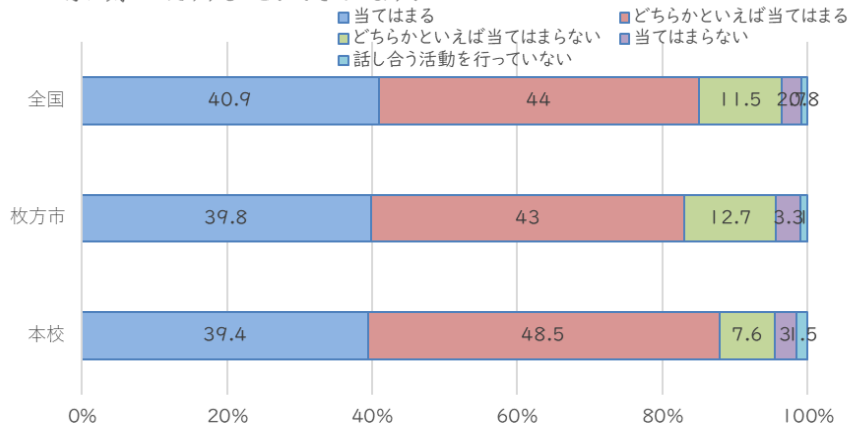
(考察)

肯定的回答が約76%で、全国とほぼ同じである。

生活科や総合的な学習の時間を中心に、教科横断型の学習に取り組み、既習事項を踏まえながら自分の考えをまとめる学習、例えば「探求学習」等に取り組みさせていきたい。

質問内容 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか



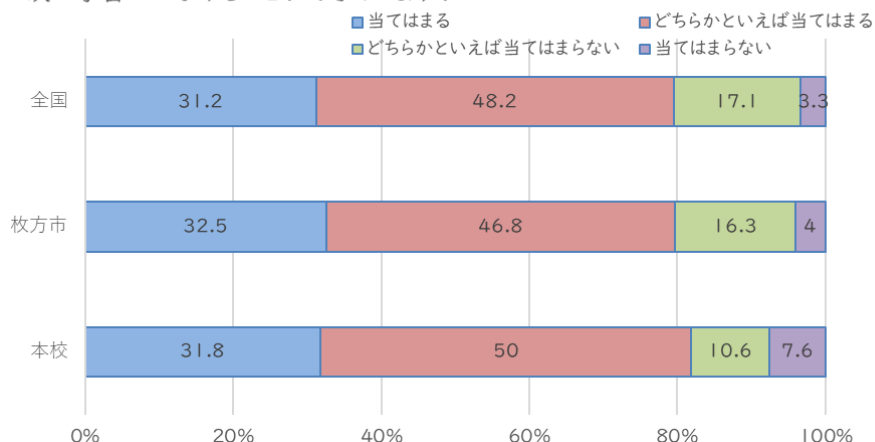
(考察)

肯定的回答が約88%で、全国より約3ポイント上回っている。

友だちや仲間との「協働的な学び」をこれからも進めていくとともに、支援等を要する子どもも、通常の学級で「ともに学ぶ」授業になる授業改善を進めていきたい。(支援在籍ではない子どもが、安心して学べる集団づくりも大切に。)

質問内容 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



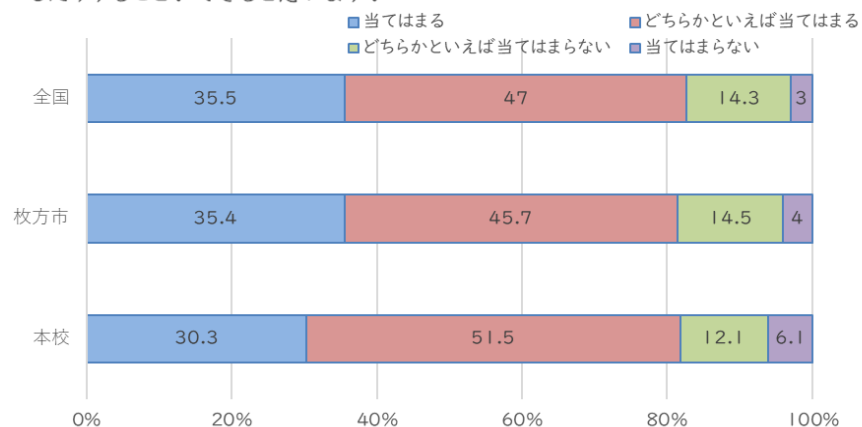
(考察)

肯定的回答が約82%で、全国より約3ポイント上回っている。

次の学習につながる「ふりかえり」を、子ども自身の言葉でふりかえり、主体的に学びに向かえるようにしていきたい。

質問内容 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、活かしたりすることができると思いますか

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、活かしたりすることができると思いますか

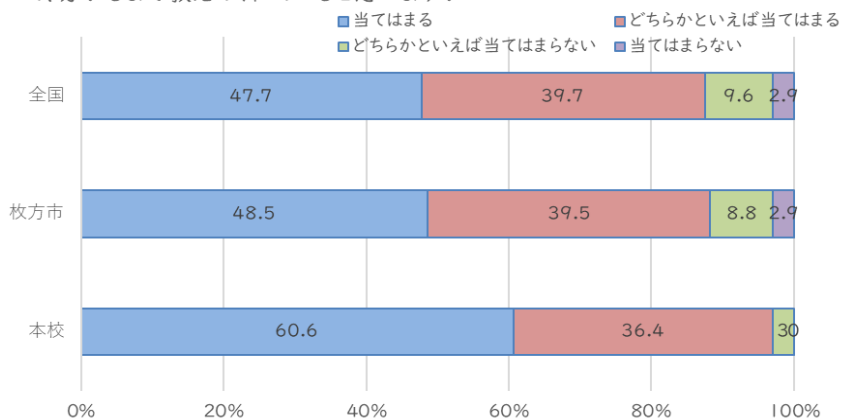


(考察)

肯定的回答が約82%で、全国とほぼ同じである。子ども自身で課題を持ち学びに向かうとともに、身の回りのことにも興味関心を持って、学びを深めていく活動にも取り組ませていきたい。

質問内容 先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かって教えてくれていると思いますか

先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かって教えてくれていると思いますか

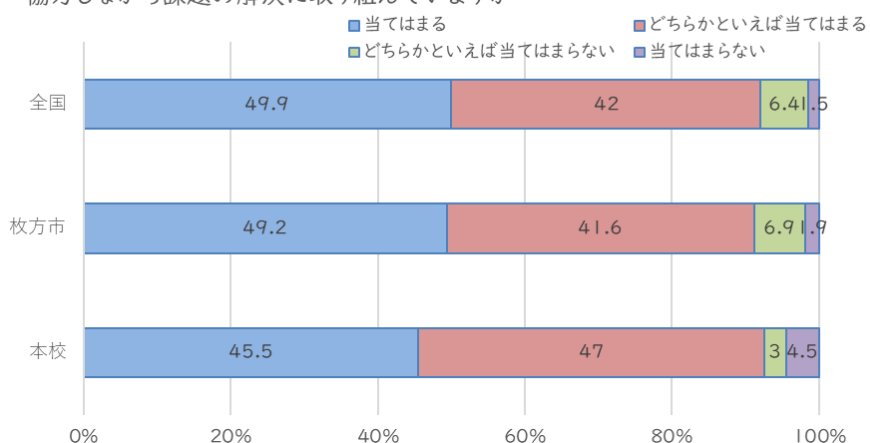


(考察)

肯定的回答が97%であり、全国より約10ポイント上回っている。子どもたちの現状に寄り添い、丁寧に指導（支援）をしているからこそこの結果だと考える。「わかった」「できた」を自信に変えて自ら学ぶ姿勢も育成していきたい。

質問内容 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

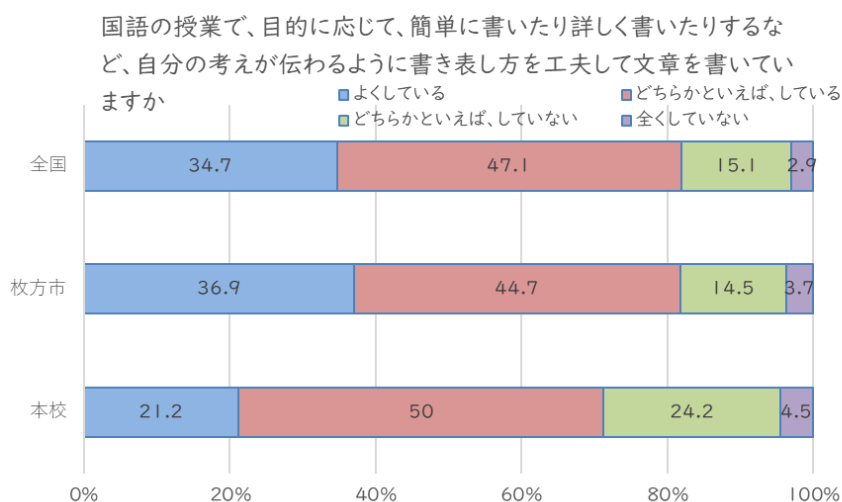
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



(考察)

肯定的回答が約93%であり、全国とほぼ同じである。今後も教科の学習だけでなく、普段の生活においても、友達や周りの人との「対話」を大切にし、互いに協力しあえる集団づくり・仲間づくりを推進する。

質問内容 国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか

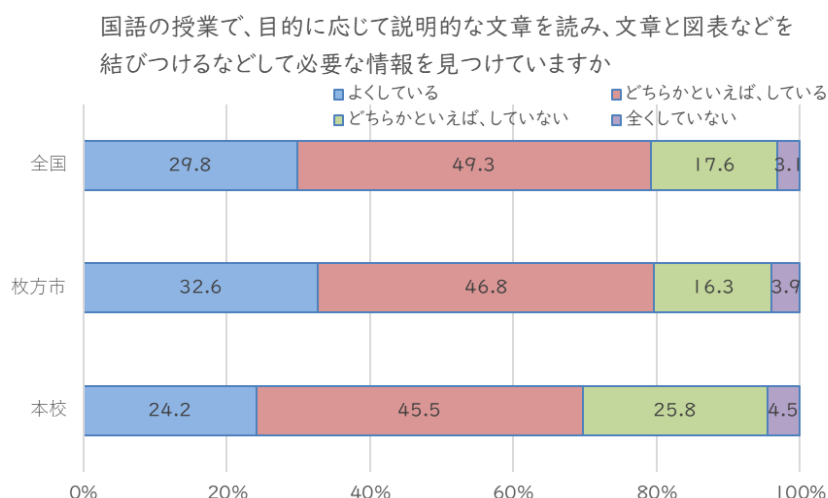


(考察)

肯定的回答が約71%で、全国より約10ポイント下回っている。

ノートに書いたり、タブレットに入力したりするなど、自分の考えを相手に伝える活動を低学年から積み上げさせたい。(国語だけでなく、他教科でも意識して取り組む)

質問内容 国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけていますか

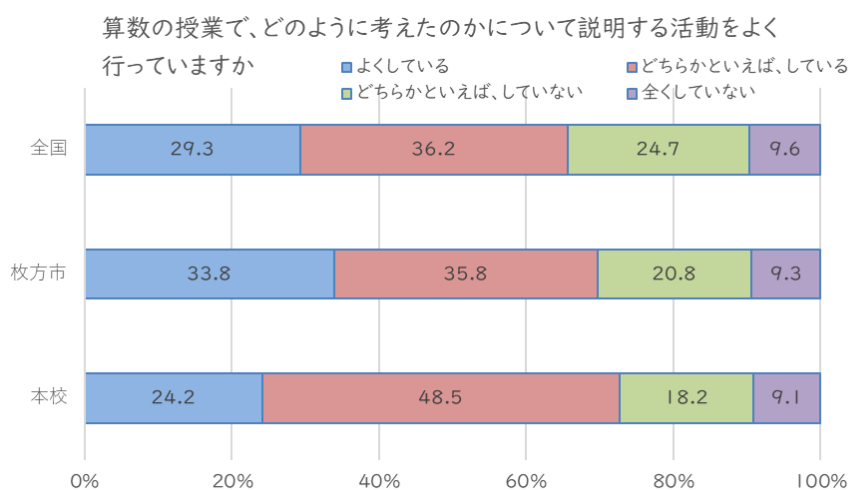


(考察)

肯定的回答が約70%で、全国より約9ポイント下回っている。

今回の調査でも課題があることが明らかになっている。他教科でも教科書や資料集等を活用して取り組むなど、これからに向けて身に付けさせたいスキルである。

質問内容 算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか

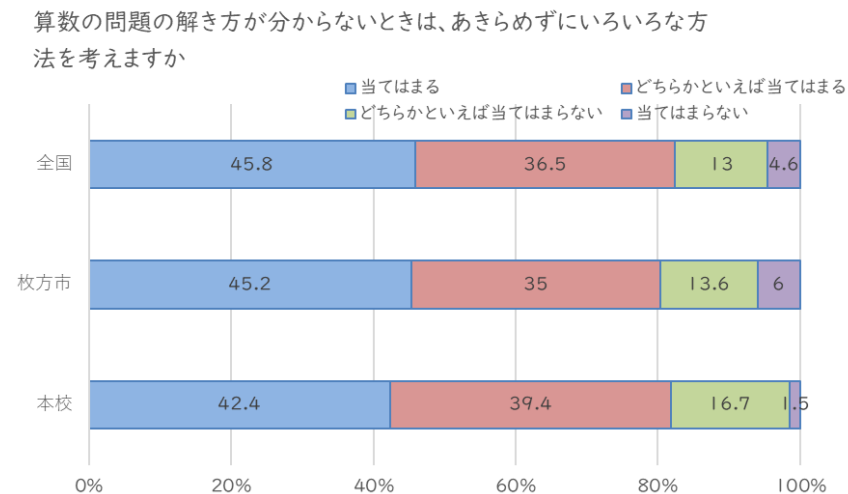


(考察)

肯定的回答が約73%で、全国より約7ポイント上回っている。

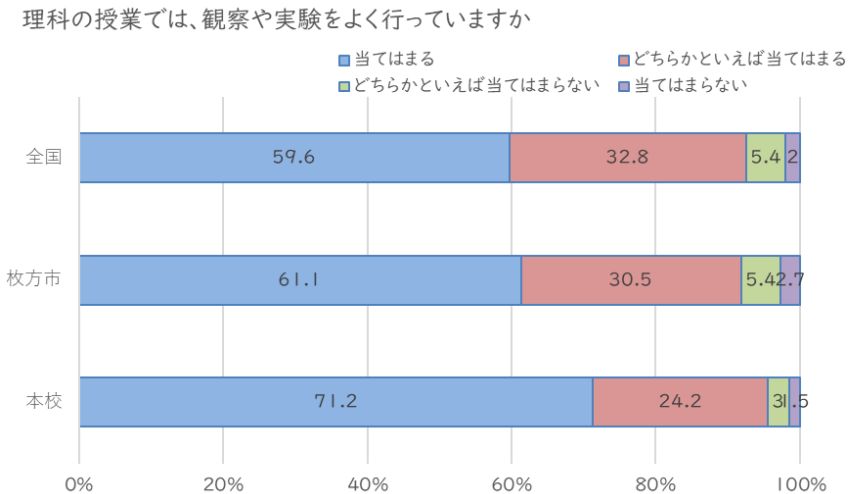
課題解決の過程をこれからも大切にするとともに、子ども同士が考え方を共有しながら学び合っていく活動も大切にしていきたい。(安心して「分からない」等も言える集団)

質問内容 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか



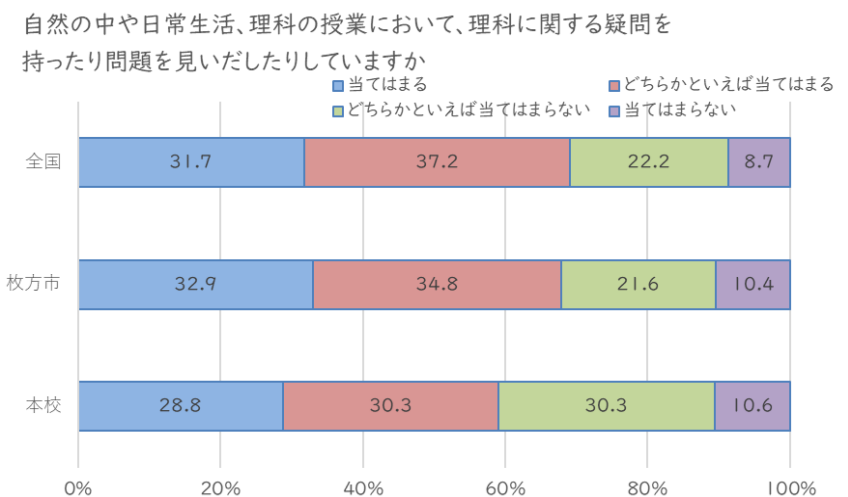
(考察)
肯定的回答が約82%であり、全国とほぼ同じ。将来に向けて求められている「生きる力」としても大切にしたい「あきらめない姿勢」。学習活動を通して身につけさせるとともに、家庭における教育として保護者とも連携していきたい。

質問内容 理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか



(考察)
肯定的回答が約95%で、全国より約3ポイント上回っている。子どもたちが好きな活動であり「楽しい」という声をよく聞く。ただし、何のために観察や実験を行っているのか「課題意識」とそれを解決するための行動や思考に結び付けたい。

質問内容 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか



(考察)
肯定的回答が約59%で、全国より約10ポイント下回っている。身のまわりの事象等に興味を持つとともに、課題を持って実験したり観察したりすることを意識した授業づくりをしていきたい。(主体的に学ぶ姿勢の育成)

(1) 授業改善について

大前提として、支援や配慮等要する関係なく、すべての子どもが安全・安心の環境（ソフト面・ハード面）であること。とりわけ、子ども同士の人間関係、「つながり」が重要。教室に居場所がない、仲間・友だちがいないと感じるものがない関係づくりが重要。「わからない」「教えて」と互いに依存しあえる仲間で。

- ①教師は、子どもの学びをつなぐファシリテーターであることを意識。
 - ⇒ 答え（結果）までの経過を大切に。子ども同士で考え合う時間（余白）を十分に確保。
 - ⇒ 「まちがえても、かまわない」「失敗してもかまわない」
＊まちがい・失敗から、次を考えさせる。
- ②自分の考えを書いたり、話したりする時間（余白）を十分に確保。
 - ⇒ 1年生のうちから、すべての教科で。
 - ⇒ テーマや条件を決めて。計画的に。積み上げていく。
 - ⇒ ノートに書くことが難しい児童への対応。タブレットも有効活用。
- ③じっくり、読む時間（余白）を十分に確保。
 - ⇒ 何が書かれているのか、自分で、自分たちで理解できるように。
 - ⇒ 読書の時間を確保。自分で選んだ本をじっくりと読み、味わう。
- ④「なぜ？」を重視する。
 - ⇒ 「公式にあてはめて答えを出せばよい」ではなく、なぜ、そうなるのか、考察させる。
 - ⇒ 実験の結果までに至る過程を重視。考察する時間（余白）を十分に確保。
- ⑤「経験」「体験」を、普段の生活に活かすことを意識する。
 - ⇒ 1年生のうちから意識的に。＊「まちがい」「失敗」も大切。教師（大人）が先回りしない。

(2) 家庭学習について

- ①くり返し学習をするための家庭学習
 - ⇒ 漢字ドリル・計算ドリルを活用した自主学習、タブレットを活用した自主学習等、「自主学習のやり方」を1年生のうちから身に付ける。
- ②「学校⇄家庭」シームレスな学習
 - ⇒ 自分で課題を見つけて学習する習慣を1年生のうちから、身に付けさせる。

子どもの10年後、20年後を見据えた学習支援・指導を徹底する。